

B—3 家庭用電気洗濯機による改良洗浄法に関する研究(Ⅲ)中温洗浄について(その1)

静岡大 小出 直人
上田 公子
○長橋由利子

1. 洗浄作用における温度効果には一応みるべきものがあるが、家庭洗たくでは、現行洗濯機を取り扱うなかで、もっぱら低温方式による。営業洗たく法が洗たく仕上りで格段すぐれるのも高温洗浄方式によることに一因があると考えられる。そこで、電洗機洗浄に中温(60~70°C)方式の導入を試み、中温条件下の洗浄結果の得失を明らかにし、とくに、洗浄による白物の白度低下の抑制ならびに衛生的効果の向上を図ることを目的とする。

2. ①浴温を中温とするための加熱器使用とその熱効率について検討する。

②電洗機各部位における中温条件下に現われる熱変化・熱傷害を洗浄の多数回くり返し後に観察する。

③中温浴における被洗物(エステル系・レーヨン系・綿系)の洗浄変化を形態・性状・繊維傷害などについて低温方式の場合と比較観察する。

④被洗物の衛生的清浄度については寒天培養試験による菌数測定から比較検討する。

3. 浴温の直接加熱方式の採用は実用上、能率的なものが現状では得られない。中温水注加による場合が安直となる。中温方式の多数回洗浄くり返し(30回)による電洗機各部位の熱傷害で著しいものはみられない。被洗物の洗浄変化ではエステル系のみがほとんどみられないが、しわの発現が目立つ。また衣料の縫製部に傷害がみられる。一方衛生的清浄度は高い。